

# クビ切り「三本柱」撲滅！

10.10

蘇我支区廃止！ 「60・3」大合理化粉碎、  
クビ切り「三本柱」粉碎！ 三里塚二期阻止！  
示そう、動労千葉の底力！ [決起へ！]

出席した今年度55才になる組合員のひざをまじえた討論では、「これから先行きどうなるのか」「『三本柱』に怒りを感じる」等々不安や怒りが強く述べました。

主な意見としては、①年金支給年令が現在「55

革マールのクビ切り「三本柱」の受け入れに見られる裏切りを弾劾し、「不当な退職強要を絶対に阻止するため、職場の全員が怒りをもつて闘つていこう。動労千葉は、高令者の生活設計その他も含め、組合員の要求を最大限押しこむためがんばる。この闘いは、当事者の決意が何よりもカギを握っていることなので、皆さん方も厳しい条件に負けずにぜひ頑張つてもらいたい」と熱をこめて訴えました。

## 不安と怒り——真剣な討論

国鉄当局からの不当な取り扱いなどは絶対にさせない。第二に「60・3」などにおいて、これ以上

「過員」はふやさせない取り組みを一層強化していくことを提起しました。

続いて挨拶にたつた中野委員長は、動労「本部」

第一歩であること。そして、何よりも高令者の組合員が自分の意に反した退職を強要されないよう取り組みを強化しなければならない。そのため

に勤労千葉として、第一に「過員」については、

本部・布施書記長が、この間の経過と今後の取り組みについて報告を行いました。

現在、国鉄労働者にかけられているクビ切り「三本柱」は、高令者に対する退職強要を中心とする攻撃であり、単に国鉄当局だけでなく「臨調・行革」をもつて国鉄労働運動解体を策す反動・中曾根内閣の基本をなす攻撃であること。さらに国鉄再建監理委員会による「87年、民営・分割化」までの間に、10万人のクビ切りを強要する攻撃の第一歩であること。そして、何よりも高令者の組合員が自分の意に反した退職を強要されないよう取り組みを強化しなければならない。そのため

## 不当な「過員」攻撃を許さない

本部・布施書記長が、この間の経過と今後の取り組みについて報告を行いました。

員「35名参加のもとに高令者懇談会が開催されました。国鉄当局のクビ切り「三本柱」の攻撃の中で、なやみや不安、今後の見通しや様々な要求なども含めて率直に意見を出し合い、当局の不当な攻撃に怒りをもつて本部→支部→組合員が一体となつて強固な団結を打ち固めて闘いぬくことを確認しました。

# 55才組合員懇談会開かる



84. 10. 6

No. 1760

千葉市要町二一八（動労車会館）  
(鉄電)二九三五六・(公衆)〇四七二二(22)七二〇七

日労

動労  
千葉

才退職の場合でも56才から支給」になつているので、特例措置をできないものか。②年休等で連続して休んだときの「基本給調整額の張り付け」はどうなるのか。③休職した場合「労働処分の回復」はどうなるのか。また、休職によつて生じる問題点について、など率直な意見がだされました。

就職以来40年間にもなる思い出話や、年金、退職金等の突つ込んだ討論、そして「このまま当局の言うなりの攻撃を許しておいたら退職者・O.B.の生活はどうなつてしまふのだ」という不安や怒りなど、真剣な討論が各日とも3時間余も続けられ「要求獲得のため、当事者ががんばれるかどうか最大のポイントになる。みんなで力を合わせてがんばる」ことが確認されました。

## さらに闘いを強化しよう

現在、「余剰人員の調整策」の提案のなかで動労千葉は「(4)職員の申し出による休職の取り扱いに関する特例について」のみ妥結してきたところであるが、本部としてだされた意見を尊重し、今後も大詰めの段階に入った団体交渉の強化を中心に戦いを強めていくことを明らかにしました。

- (1) 退職制度の見直し
- (2) 職員の申し出による休職の取り扱い
- (3) 職員の派遣

については「引き続き協議」になつていますが、今後状況に応じて、56才、55才の組合員の懇談会の再度の開催、さらには、50才台の組合員を対象とした懇談会の計画など「三本柱」粉碎の闘いをより具体的かつ強力に推進していくことを確認して成功裡に終了しました。

そして、そのためにも対政府・対国鉄当局との力関係を組合の側に圧倒的に優位に保ち、不抜の団結力・戦闘力をさし示し続けることの重要性を確認し、当面する「10・10五割動員」実現に全力を傾注していくうではありませんか。